

6. 解説「関連データ・用語・仕組み」: ステークホルダー資本主義とは

ステークホルダー資本主義とは、「企業は株主の利益を第一とするべし」という「株主資本主義」とは違い、企業が従業員や、取引先、顧客、地域社会といったあらゆるステークホルダーの利益に配慮すべきという考え方である。具体的には、環境破壊の防止や、企業がオフィスを構える地域社会への投資、従業員への公正な賃金の支払い、労働者間の格差の是正、適切な納税などが求められている。」

出典:ステークホルダー資本主義とは? IDEAS FOR GOOD <https://bit.ly/39zmvXA>

ステークホルダー資本主義が注目されるきっかけは、米経済団体ビジネス・ラウンドテーブル(BRT)が2019年8月に発表した「会社の目的に関する声明」がきっかけで、2020年1月に開かれた世界経済フォーラム(WEF)年次総会(ダボス会議)でも重点テーマに据えられた。

ステークホルダー資本主義は、日本の近江商人の「三方よし」(売り手よし、買い手よし、世間よしの三つの「よし」)に通じ、日本はその実践知があると云われる。しかし、例えば、フェアトレード(開発途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入することにより、立場の弱い開発途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指す貿易の仕組み)の普及はまだまだである。加えて、近年は最大のステークホルダーである「従業員よし」が欠落している。1990年以降、非正規社員の拡大等により、日本の賃金水準が上がらず企業の内部留保のみが積み上がったことはその証左である。このため、最近では、「従業員よし」を加えた「四方よし」を掲げる企業も現れている。「将来よし」とする「四方よし」も云われている。いずれも、SDGSにつながる。

参考:世界で脚光「ステークホルダー資本主義」、企業経営の潮流になるか 2020年09月24日 <https://newswhitch.jp/p/23911>

開発途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入することにより、立場の弱い開発途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指す「貿易のしくみ」 FAIRTRADE JAPAN <https://www.fairtrade-jp.org/>

「三方よし」より「四方よし」 note 2020/05/02 <https://bit.ly/36u9CfD>

SDGsは「四方よし」(一社)SDGs九州チャレンジ <https://bit.ly/3ai7s3M>

経団連は、こうした流れを受け、「これまでの成長戦略の路線に一旦、終止符“。”を打ち」、新成長戦略(2020年11月7日) <https://bit.ly/2Y7SyaG>の中で、「サステナブルな資本主義」を掲げ、その中で、ステークホルダー資本主義の考え方の導入を表明している。

このステークホルダー資本主義に対峙するのが、「国家資本主義」である。そして、それらを包摂する可能性を秘めているのがビッグデータに依拠する「データ資本主義」かもしれない。

参考:ステークホルダー主義には同調せず、世界の主導権を狙う中国 日本総合研究所 調査部 上席理事 呉軍華 2021.1.18 金融財政事情 <https://bit.ly/3cfTMss>
データ資本主義とは何か 野口悠紀雄 証券レビュー 第61巻第1号 <https://bit.ly/3ptnH4w>